

わだい

下 平成最後の年に終わりを迎えた伝統行事 之門で最後の『白おこし』



1月1日、無病息災や五穀豊穰を願って行われる正月の行事『白おこし』が、元旦の夜に下之門地区で行われました。これまで、下之門子ども会が毎年継続して行ってきましたが、地区の子どもの減少により今回が最後の『白おこし』となりました。

当日は、親が見守る中で、子どもたちが『白おこし』の歌をうたいながら地区の各世帯を回り、玄関や軒先でミカンや餅、お菓子などが振る舞われました。

窪田振興会長は、「戦前から続けてきた『白おこし』も今年で最後となり寂しくなるが、子どもたちにはこの伝統行事があったことを忘れないでほしい。」と話されました。

テ コテンドン (岸良で山の柴祭)

1月2日、岸良地区で山から神様を迎えるテコテンドンが行われました。標高747メートルの北岳に登り、山頂の小さな祠(ほくら)の前でテコテンサンを作り、平田神社へ戻って奉納しました。テコテンサンは馬酔木(あしび)の枝の根元を赤い布で束ね、人の形のように作られます。

今年も好天に恵まれ、山頂からは屋久島・種子島を見渡すことができました。山を下りると、神社では神歌が奉納されました。



論 地のオネッコ (論地地区鬼火焚き)

1月5日、正月の伝統行事、オネッコが論地集会所そばの境川堤防上で行われました。

論地地区の竹やぐらは親竹(孟宗竹)を中心に大小さまざまな竹で組まれています。火入れの前には、その中で地域の子どもたちが餅を焼いて、ぜんざいなどを味わい、外では竹筒で温めた焼酎で大人たちが暖をとっていました。



1時間ほど、やぐらで過ごした後、午後7時に火が付けられました。火の勢いが増してくると、バチンバチンと竹の弾ける音が響き渡り、集まった地域の人たちの厄を払いました。